



数学科講師
吉良 敏宏 氏



メデュカパス卒業生
(日本大学医学部1年)
鈴木 研裕 さん

生徒同士教え合う「インプット・アウトプット方式」 理解が深まる

旧両国予備校で長年にわたり、医歯系大受験指導に携わってきたベテラン講師陣が設立した少人数制予備校が「メデュカパス」。生徒同士が教え合う独自の授業「Input-Output方式」や、充実した内容の「対策本」などが大きな強みになっています。その教育の特色を、数学科の吉良敏宏講師とOBの鈴木研裕さん（日本大学医学部1年）に語り合っていました。

オリジナルテキストで ベストの解法を習得

吉良 メデュカパスで印象に残っている授業を教えてください。

鈴木 衝撃的だったのが物理の授業です。それまでの私は、単に受け身で授業を聞いているだけで、何となく「わかった」つもりになっていました。自力で問題が「解ける」のもう一段階上のレベルなため、いつの間にか物理が苦手科目になっていました。メデュカパスの授業で指導されたのは、「教えられたことが本当に正しいのか、常に疑問を持つようにしなさい。その疑問を追求して、完全に自分のものとして消化するこ

とが大切」ということです。物理は抽象的な概念が多く、自分で考え抜く勉強が不可欠になります。それからは必死で考えて、それでも疑問が解消されない場合は先生に質問に行く学習を繰り返したことで、成績が急激に上昇していきました。

数学の授業も印象に残っています。オリジナルテキストに幅広い分野の多様なパターンの問題が盛り込まれており、それぞれの問題を解く際のベストの解法を習得することができました。

吉良 オリジナルテキストは、旧両国予備校時代から蓄積されてきた頻出問題をもとにして、毎年すべての医学部の入試問題を詳細に分析し

て、新傾向問題も加えて改良しています。

国立医学部の2次試験は、1問30分ぐらいかけてじっくり記述させる問題が多いのですが、私立医学部の場合は、マークシートで解答だけを書く問題が多く、その分、大量の問題が出題されます。その点を意識して、どんな分野から出題されても対応できる力を養うと同時に、複数の解き方があっても、その中で最も効率の良い解法を身につけさせるように努めています。単に解ければいいわけではなく、スピードをとまなつたベストの解法を習得していなければ、私立医学部の問題のボリュームには太刀打ちできないからです。

**面接で威力を発揮
高い2次合格率に結実**

鈴木 メデュカパス独自の「Input-Output方式」の授業も楽しみにしていました。3〜4名の生徒の前で自分の解き方を紹介するのですが、教えることで本質的な理解が深まります。仲間たちが「なるほど」といった顔をしてくれることが自信になりました。ときには私が思いつかなかった発想で、別の解き方が提案されることもあります。とても参考になり、解法の引き出しを増やすことができる場だったと感じています。

また、人に教えるのには論理的でわかりやすい話し方を心がける必要がありますから、コミュニケーション力も高めることができました。

吉良 それがまさに「Input-Output方式」のもう一つのメリットといえます。医学部入試の2次試験では、面接やグループ討論などが課されます。自分の意見を整理して的確に述べる力が要求されるわけですが、メデュカパスの生徒たちは、「Input-Output方式」の授業でそのトレーニングを十分に積んでいますから、まったく苦にしません。そのため、1次試験通過者の2次試験合格率はきわめて高く、大きな強みになっています。

鈴木 2次試験の合格率が高いのは、充実した小論文指導も要因だと思います。小論文の授業で文章表現

の作法を徹底的に指導されますし、毎朝、「天声人語」などの新聞のコラムを書き写すことが義務づけられていたことも効果的でした。実は、私が受験した大学の小論文で参考資料に「天声人語」が使われており、それが以前に書写した文章だったのでラッキーでしたね。

吉良 そのほか、医学関連の新聞記事はスクラップしたり、壁に貼り出したりして、自由に閲覧できるようにしています。小論文や面接で時事問題が話題になった際に役立つだけでなく、医学の最先端のニュースに触れることによって、「将来、自分もそうした世界で活躍したい。」とモチベーションを高めることにつながったという声も聞かれます。

**毎日の「確認テスト」で
定着力を高める**

吉良 また、メデュカパスでは絶対に授業をやりっぱなしにはしません。月曜日から金曜日まで、1日1科目、50分の「確認テスト」を実施します。出題範囲はその前の週の授業で学んだ内容です。さらに、次週の土曜日の午前中に「確認テスト直し」の時間を設けて、全問確実にできるようにするまで解き直します。それにより知識を完全に定着させていくわけです。

鈴木 毎日テストがあるので、ピリツと緊張感を保つことができました。「確認テスト」の成績上位者は

名前が貼り出されるので、友人と「今週は負けただけど、来週は勝つかな」と刺激し合っていました。また、「確認テスト」の成績や出欠状況は毎週家庭にも報告されます。帰宅すると両親がしつかりチェックしていて、プレッシャーにはなりませんが（笑）、平均点より10点以上低いと赤字で表示されるので、心配をかけないように、絶対に赤字はとらないようにしようと頑張るきっかけになりました。

**講師との距離が近く
仲間とも切磋琢磨できる環境**

鈴木 何よりも大きかったのが、学習に集中できる環境です。朝9時から夜9時まで強制的に勉強させられますから、自然と自分を律する習慣が身につきます。私は、まずその日に勉強する内容を決めて、次に1週

間単位、1か月単位で何ができるか、目標を定めて計画的に勉強を進めていきました。

吉良 1日12時間の拘束というところ、厳しく感じられるかもしれませんが、けれども、現在の難化した医学部の合格レベルに、わずか1年間で到達するためには、それだけの圧倒的な勉強量が要求されることを覚悟してほしいですね。

鈴木 講師との距離が近いことも魅力です。夜自習していて、疑問に感じた部分は、すぐに先生に質問して、その日のうちに解消することができました。

吉良 少人数制だからこそ可能なことですね。わからないことをそのままにしない姿勢はとても重要で、積極的に質問にくる生徒はほぼ確実に合格していきます。

鈴木 仲間との人間関係も支えになりました。私は高校卒業後、1年間、大手予備校に通っていたのですが、集団授業を受けて帰宅するだけの日々で、悩みや不安を共有できる友人がでず、気持ちが落ち込んでしまいました。メデュカパスでは、寮生、通学生も一緒に、バランスのとれたおいしい食事を楽しめます。そこで交わされるちょっとした会話で気分転換を図ることができ、気持ちも楽になりました。ハードな受験勉強を乗り切るためには、そうした人間関係や学習環境も大切な要素になると思います。



「Input-Output方式」の授業